

日本にはアオバセセリと名のつくチョウが2種いて、アオバセセリは文字通り全体の緑色鱗粉に後翅端にはオレンジというアクセントがあるきれいなチョウだ。一方、八重山諸島でしか見られないこの台湾アオバセセリは、翅基部にわずかにウグイス色の光沢があるだけで、普通にみれば褐色オニリーのチョウである。

セセリチョウ科のチョウは例外なく飛翔が敏捷で、飛んでいる姿を見ただけでは種の特定が難しい。八重山地区でみられる大型のセセリチョウは本種とオキナワビロードセセリ、テツイロビロードセセリ、そしてバナナセセリの3種だが、やはり、花の蜜を吸う状況を観察して初めて種名を判別できる。石垣島、竹富島、西表島、与那国島、波照間島と、筆者が訪れたことのある八重山の主な離島すべての地域で、シロノセンダングサの花などで吸蜜する光景をみることが出来る。

右図は、石垣島川平で記録したものだが、すごいスピードで飛び交うけれども、体が大きいだけあって、遠くからでも「いるな」とくらいには判別でき、すぐに花の蜜を吸う姿勢をとってくれるので、撮影は容易である。それにしても、ここまで大きな目をしたチョウは少なく、「撮影だけだろうな」と当方の動きににらみを利かせているように見える。



幼虫時代にはキントラノオ科のコウシュンカズラを主な食草とするそうだが、ジュースの原料として栽培されるアセロラも食草となっており、近年、一般家庭でも園芸栽培する人が増えるのに合わせて分布を広げているようだ。

以下、2012 蝶紀行から抜粋。

Dec. 4, 2012 石垣島川平

人工開発の手がどんどん伸びて、川平の自然破壊が進んでいるのが出入りするダンプカーの動きで明らかで悲しい気持ちになるが、幸い、あたり一面多くのチョウが乱舞する休耕地を見つける。関西が真冬であることを忘れ汗をかいて走り回る。この川平地区で観察できたチョウは、アオスジアゲハ、ヤエヤマカラスアゲハ (少)、クロアゲハ (少)、台湾キチョウ (多)、ミナミキチョウ、ナミエシロチョウ (多)、リュウキュウアサギマダラ (多)、スジグロカバマダラ (多)、オオゴマダラ、テングチョウ (少)、アカタテハ (少)、イシガケチョウ (少)、リュウキュウミスジ、ルリウラナミシジミ、アマミウラナミシジミ、ウラナミシジミ、台湾クロボシシジミ (少)、ヤマトシジミ (多)、台湾アオバセセリ (少)、ネッタアカセセリ (少) の20種で、アオアタテハモドキらしき個体が頭上を飛ぶのを目撃したが確定はできないまま。

